

公益社団法人 私立大学情報教育協会  
2020年度第1回短期大学会議教育改革 ICT 運営委員会議事録

- I. 日 時 令和3年6月19日(土) 14:00~16:00  
場 所 ZOOM 会議室
- II. 出席者 戸高委員長、三田委員、西岡委員、後藤委員、大重委員、早坂委員  
(事務局:井端事務局長、中村、坂下)

III. 検討事項

1. 短期大学教育教育改革 ICT 戦略会議の開催方針について

次第の順序及び内容変更して、戦略会議の開催方針から検討することになり、資料①「戦略会議の開催方針(案)」に沿って、事務局より概ね以下のような報告・説明が行われた。

- ① 9月9日の戦略会議をオンライン開催で実施するため、開催要項を決定し、7月中旬に開催案内を発信することにしており、資料①の開催方針案について、検討いただくことにした。
- ② 開催趣旨は、教育研究を通じて短期大学と自治体等が協働する地域貢献活動の効果的な在り方を探求するために、私立の参加短期大学間で試行している支援事業の取組み状況を踏まえ、支援事業のニーズ、効果、運営上の課題を共有し、推進していく可能性について協議することとしている。特に、強調したいことは、社会の大きな変化に対応していくには、一大学、一自治体、一企業で立ち向かうことが困難になっていることを踏まえ、参加短期大学の間で連携して地域貢献活動を考えることにした。
- ③ また、コロナ禍で導入した遠隔授業の体験を振り返り、学生の満足度を高める対面授業と遠隔授業の良い点を組み合わせたハイブリッドな授業を含めた教育の工夫・改善について、理解の促進を目指すことを考えた。
- ④ テーマは、希望する教員でも興味を持ち参加できるようにするため、「短期大学生による地域貢献活動を考える」とした。
- ⑤ プログラムは、「話題提供」として、「遠隔授業の調査結果から、教育の質向上を目指した短期大学教育の進め方」を資料②の武庫川女子大学短期大学部のアンケート結果を踏まえて、提案していただくことを考えている。遠隔授業を取り入れて良かった点、不便な点(学生の精神的、心理的な面)を踏まえながら、遠隔授業と対面授業を組み合わせながら、どうやってこのポストコロナに向けて短期大学教育を考えていくのかというところを紹介していただくため、武庫川女子大学にアポイントをとりつつある。
- ⑥ 次に、「コンソーシアム活動報告1、2、3」として、昨年度から進めてきた3つの活動について報告し、短期大学教育の活性化にかなり大事なことを強調することとしている。

一つは、「高齢者支援事業を目指した、ICTによる世代を超えた交流活動の試行」とした。高齢者が抱えている課題解決を学生に考えさせる支援事業について、昨年度に本格的な支援事業ではなく、試行的に学生同士がネット上で高齢者と交流した体験と、今年度実践女子短期大学部、山野美容芸術短期大学が連携している取組みも含めて報告していただく。その際、学生の感想なり声を録画したもの、日野市関係者の方々にも学習状況で感じたことを紹介いただくことを考えている。

二つは、「地域価値発見支援事業を目指した、三重県志摩市とのパルズコレクション」として、大阪夕陽丘学園短期大学が取組んでいる2019年度の報告及び今年度の計画について、志摩市の関係者からも紹介いただくことを考えている。

三つは、「地域課題取組み情報共有の支援事業 Web サイトの紹介」とした。短期大学としてどういう地域連携しているかという取組みをネット上で探索いただき、Webサイトにリンクを張って紹介することを考えている。その際、どのように利活用することが望ましいか、短期大学以外の四年制大学も含めていただきたい。また、Webサイトの構成や使い方などについても紹介を考えている。

- ⑦ 全体討議は、「短期大学間による地域貢献支援事業のコンソーシアム活動を考える」として、問題提起を行い、協議することを考えている。

資料④・3の通り、今までは地方、大学、産業界がそれぞれ取組んできたが、地域課題の解決、イノベーションの価値創出が効果的に進んでいない。国としても、大学、地方、企業がそれぞれの強みと弱みを持ちながら、連携し合う社会にしていけないと課題解決ができない。学生確保の面で単に競争するのではなく、各大学等の特色や特徴を強く打ち出し、地域課題を解決することを通じて、地域社会における大学等の存在意義を示すことが強く期待される。自らの強みと弱みを把握し、より一層特色や特徴の強化を進めることが求められることを受けて、二つの視点を考えた。

一つは、コロナ禍で地域連携活動を考えるときの条件を、短期大学間との連携も含めてどのように考えるべきか問題点を整理する。

二つは、地域自治体との連携の内容・方法をどのように考えるか整理することを考えている。④・2の資料のとおり、どういう組織でプラットフォームを作り、自治体の委託事業として資金を調達する、ふるさと納税を活用するなどのガイドラインが提示されているので、考えていく必要がある。

## 2. 地域貢献支援事業の進捗状況及び今年度の活動方針について

### (2)―1 「高齢者支援事業」

- ① 昨年度よりも学生や異世代及び高齢者の参加者が倍程度あり、山野美容短期大学と実践女子大学短期大学部生、実践女子大学生も一部参加し、練習を積んで6月下旬から異世代の方と交流を開始することになっている。

今回参加学生が多いため異世代の方の確保ができないこともあり、デジタル機器を用いた活動をサポートしている民間団体「BABA lab」の協力を得て高齢者8名追加し、それに昨年の高齢者を中心とした異世代10名と37名の学生によるチームを構成し、Zoomのブレイクアウトルームを15用意して、6月23日(水)から3回に亘り実施することになった。

- ② 支援事業は、短期大学間での学生集めの呼びかけ、昼休み時間の確保、異世代及び高齢者との話しのトピック作成（例えば、若い人と出かけるとしたらどういうことがしたいですか）などの連携が非常に重要であることをしみじみ感じた。

- ③ 交流は、用意した話しのトピックを1分間プレゼンし、その後15分間で3、4人のブレイクアウトルームでコミュニケーションを展開することになっている。短期大学生、大学生、民間団体(BABA lab)、日野市の団地自治会、間接的に日野市役所もかかわるこのような活動はSDGsのパートナーシップで目標を達成するという事に繋がってくる。発表の機会があれば、BABA labの桑原氏に登場していただくことも考えられる。

### (2)―2 「地域価値発見支援事業」

- ① 1短期大学ではなく、ある地域の地域価値発見支援について、コンソーシアムの短期大学の学生に問題を投げかけて考えさせる努力をしていかないといけない。
- ② アフターコロナに対してどのような取組みを今考えているのか、ということをもとめられればいかなと思う。パールズコレクションにしても、中止になったので、発表の付加価値がそんなに大きくなるので、「コロナ後の展望」という形でまとめるかなと考えている。
- ③ 実践例を踏まえながら、これからの展望を発表してもらえれば良い。他の短期大学とも連携したいというくらい声が出てきてほしいと思う。アフターコロナに向けて、4短大が学生の教育も含め、どのように進めていくかということを発表できないか。
- ④ 開催要項を作成するため、担当委員からコンソーシアム参加校に連絡をとり、調整いただくことになった。

### (2)―3 「地域課題取組み情報共有の支援事業 Web サイトの紹介」

- ① 各地域課題に取り組んでいる情報を共有するためのコンテンツが必要となるので、Webサイト上のプラットフォームに情報を掲載する必要がある。9月の会議に向けて、実際に各大学、短期大学のサイトからリンクをさせていただくための了解を取り、Webサイトに掲載し、説明できるように思っている。
- ② クラスルームをプラットフォームと位置付けているが、あまりまだ使われていない。

今のところコンソーシアム参加者に限定しているが、全体に広げることも可能なので、広げた場合の運用方針が課題となる。地域連携の題材があれば、クラスを作って共有することは可能と思う。セキュリティ上のことを考えると、申し出があれば専用のメールアドレスを付与して参加してもらうほうが良い。

### 3. 開催方針及び開催要項作成に向けての準備について

- ① 事務局の開催方針案を基本的に了承した。また、資料①・1の開催要項(案)の開催趣旨を開催方針案に沿って修正することにした。
- ② 開催要項(案)のプログラムについては、話題提供の発表者の確認、コンソーシアム活動報告の発表者及び報告者の確認、全体討議の問題提起の内容確認を次回に改めて行うこととした。
- ③ 地域価値発見支援事業は、コンソーシアム参加校から短期大学間で連携する可能性を確認することになり、大重委員に調整が任された。
- ④ 全体討議の最初の問題提起者は、「コロナ禍における短期大学間での地域連携活動に求められる条件・課題」の整理を大重委員に依頼することにした。その際、文部科学省でとりまとめた資料④.3「地域連携プラットフォーム構築に関するガイドライン」を用いて、プラットフォームに参画する意義、運営体制（特に、予算確保の対策）、課題解決のための事項(特に、大学等の教育の質保証と人材育成機能の強化に向けた取組み例)なども含めて紹介することを考えてみることにした。

次の問題提起者は、「自治体からみた短期大学又は短期大学間との連携協力の有用性と推進方策」を日野市の中平氏に依頼することになり、三田委員から調整することにした。

### 4. その他

次回は、7月21日(水)午後5時とし、開催要項の内容を再確認し、決定することにした。